

福井県の低地ブナ林5 平泉寺の白山神社参道—標高 250 m—

*大久保 嘉雄

勝山市平泉寺町にある白山神社の参道沿いにはブナが生育している（図1）。標高は約250 mである。福井県の低地ブナ林では、越前町新羅神社（標高200 m）の次に標高が低い。記録温度計から求めた暖かさの指数は88.9と、新羅神社の88.1とほぼ同じである（大久保2008、図2）。吉良(1976)のブナ林の暖かさの指数の上限値85と比べると少し大きい、内陸部の奥越地方にあるので冬の積雪が生育を可能にしていると考えられる。

訪ねるときは標高170 mにある参道の入り口から入るとよい（図3）。入り口の右手には駐車場がある。参道の両側にはスギの巨木が並んでいる。約200 m進むとブナが現れ、参道の後方にある雑木林にブナの高木から低木、稚樹が帯状に点在する。低木より大きい個体数は百本は下らない。その面積は参道の両脇にそれぞれ約10 mの幅をもち約1 kmの長さで白山平泉寺歴史探遊館まほろばの手前まで続く。入り口から約800 mの地点にブナ林と呼ぶことのできる区画が一ヶ所ある（図1のA、図5）。広さは20 m×30 mくらいである。ブナは他の落葉広葉樹に比べて早く開葉するので、4月上旬にはうっそうとした杉並木の中にブナの淡い緑色の若葉のコントラストを楽しむことができる（図4）。

ブナの点在する参道沿いの雑木林には、ナツツバキやイヌシデの高木、アオハダやコシアブラなどの亜高木、オオバクロモジやヒメアオキなどの低木が見られる。林床にはブナの低木や稚樹も見られ、次世代が育っている。このまま順調に育てば帯状にブナ林が形成されるかも知れない。

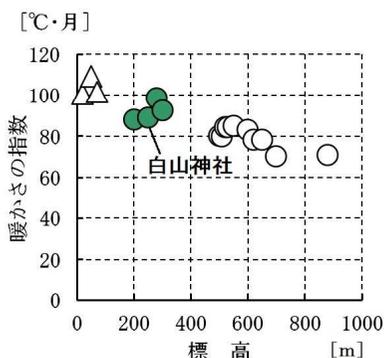


図2 標高と暖かさの指数の関係

△照葉樹林 ●低地ブナ林 ○ブナ林



図1 勝山市平泉寺町の白山神社参道のブナの位置

国土地理院2.5万分の1の地形図を利用した。Aには20m×30mのブナ林がある



図3 白山神社 参道入り口 2023.04.12
標石には「史跡 白山平泉寺旧境内」とある



図4 白山神社参道沿いのブナ 2023.04.12
参道の両脇の約10mの幅に点在



図5 ブナ林 2019.10.31
図1のA地点に広さ約20m×30m



図6 林縁のブナ 2023.04.12
日当たりがよく成長が良い

白山神社参道の低地ブナ林や雑木林の林床には、他の低地ブナ林と比べて次世代のブナが順調に育っている。また、付近の集落への道路沿いの林縁には多くの低木が見られる。林に母樹らしいものはないので、ネズミ類が種子を運んできたのかも知れない。ブナは耐陰性が強いので陰樹と思われがちだが、日当たりの良いところでは成長の良い低木をよく見かける。この地域には広範囲にブナの低木や稚樹が林床に多数あることから、付近一帯にブナ林が広がっていたと想像する。白山神社のブナ林がある奥越地方は、他の嶺北地方の地域と比べるとブナ林の下限が標高200mまで下りているようすがわかる。積雪が多いため、春先の低温と林床の湿り具合がブナの生育により影響を及ぼしているのと考えられる。冷涼な多雪地帯に広がるブナ林の雰囲気を楽しむ場所である。

参考

原正利. 1996. ブナ林の自然誌. 平凡社, 東京.

大久保嘉雄. 2008. 福井県のブナ林の下限は標高何mか. 福井県高等学校理科研究会誌 51: 32-36.

横山俊一. 1999. 福井県のすぐれた自然 植生編. 福井県県民生活部自然保護課, 福井.

丹南地方の新羅神社（標高 200 m）や大滝神社（標高 280 m）、福井市の上一光神社（標高 320 m）や永平寺（標高 300 m）の低地ブナ林に比べると